

科目名称	国語
授業コード	AI223
英語名称	National language
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○幼児から児童（幼稚園～小学校）のそれぞれの発達段階において、国語（日本語）の力を高めることは子どもの成長にとって重要である。子どもの国語（日本語）の成長を支えるために、「創造的・論理的思考の側面」「感性・情緒の側面」「他者とのコミュニケーションの側面」を支える言語能力として、保育・教育者として必要な国語（日本語）についての知識を深める学び、コミュニケーションにおける言語運用の学びを行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○保育・教育者にとって必要な国語（日本語）についての理解を深めることを目的に、適切な国語（日本語）の表現能力の獲得、国語（日本語）の性質や特徴についての知識の習得、コミュニケーションにおける言語運用についての理解、小学校への接続のための幼稚園・保育園での国語（日本語）の学びの内容を知ること目標とする。  ○学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する位置づけは以下のとおり。 【知識・技能】授業づくりや授業展開に必要な国語（日本語）に関する考え方や学術的知識を理解し、子どもの育ちに即した教育方法を実践することができる。 【使命感・思考力】言語能力やコミュニケーションに関する言語の知識など教育の場で必要となる技能や知見を身に付け、協働しながら、取り組むことができる。 【人間力・指導力】言語や国語科の内容を基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。 【創造的な保育や教育】言語の知識や言語能力の理解を踏まえて、未来を担う子どものための新たな教育方法を模索することができる。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 国語（日本語）を知るとは？ 第2回 日本語の特徴と性質 言葉の種類 第3回 日本語の特徴と性質 言葉の変化 第4回 コミュニケーションと言葉 言葉の獲得（意味と生成） 第5回 コミュニケーションと言葉 言葉の運用（バーバル・ノンバーバルの意味づけ） 第6回 書記言語としての日本語 日本語の文字と文体の特徴 第7回 書記言語としての日本語 言葉（語彙：メタファ）について 第8回 書記言語としての日本語

計画・内容	<p>「書くこと」と「読むこと」</p> <p>第9回 書記言語としての日本語 文法と言葉：相手に合わせた伝え方</p> <p>第10回 日本語と言語文化 自分の体験を伝える書き方：随筆/エッセイ</p> <p>第11回 日本語と言語文化 思考の見える化：マインドマッピング法</p> <p>第12回 日本語と言語文化 書道の文化体験：芸術作品としての書道</p> <p>第13回 チーム課題実践 テーマに沿った研究論述：資料あつめ</p> <p>第14回 チーム課題作成 テーマに沿った研究論述：全体構成</p> <p>第15回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）</p>
授業の進め方	○各回、授業のはじめに国語（日本語）の表現力を高めるための短い文章を作成する時間をとってから、各回のテーマを展開する授業の流れとなる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有しながら理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生どうしで考えの交流を行い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと（各回約2時間） ○参考書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」や「小学校学習指導要領解説（国語編）」を何度も読み、各回テーマにおいて該当する記述内容の把握と理解をしておくこと（各回約2時間） 15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	○教科書：なし（授業時にプリント資料を配付） ○参考書：小学校学習指導要領解説（国語編） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
成績評価方法と基準	○授業内のチームでの話し合いへの参加とコメントシート30%、チーム課題30%、まとめ思考テスト（理解度の確認）40%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	○各回授業で作成する短い文章について、すぐれた作品を紹介し、表現技術を共有する時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。</p> <p>成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題提出30%、まとめ確認テスト40%で評価する。</p>